

序文



医学は日進月歩、ものすごい勢いで進歩しています。小児科学も例外ではありません。しかも情報が氾濫する現代において、診療する側もされる側も何を信じればよいのかわからなくなります。そのような社会的背景のもと、診療ガイドラインが次々と作成されています。それぞれの学会のエキスパートがクリニカル・クエスチョンを設定し、文献を網羅的に解析し、推奨度を判定して作成されたものです。もちろん一つ一つの疾患についてすべてのガイドラインを手元に置いて診療すべきなのかもしれませんが、流石にそれは現実的ではありません。また、ガイドライン自体は往々にして無機質的な表現ばかりになりがちで、現場で活用するには今ひとつピンと来ないという感想をお持ちの諸兄も多いのではないかと推察いたします。

本書はさまざまな診療ガイドラインが出揃ってきた今日の段階で、主要な疾患に絞って1冊にまとめ、さらにガイドライン原文では伝わりきらない生きた情報として、専門家の解説を加えたものです。ぜひ手元においていただき、擦り切れるまで活用していただきたいという願いが込められています。とはいえ、おそらく数年単位で改訂版を用意しなければならない運命だと思います。

何が何でもガイドラインに縛られる必要はありませんが、現時点での標準的な考え方を知ったうえで、患者さんと情報を共有しながら診療を進めることが何よりも大切だと思います。血の通った診療のためにこそ、本書をご活用いただきたいと願っています。

「小児科」編集者一同